

震災で感じた課題を今後活かしていくために

2011年6月～8月にかけて、震災についてのアンケートの配布をさせていただきました。
 (保谷駅北口・南口、大泉学園駅北口・南口、石神井公園駅北口での配布と、郵送による配布)
 今回のレポートでは、アンケートの結果と地域防災計画の見直しのことをご紹介します。

子ども、高齢者、障害のある人は緊急時にも困難が：

区は今、地域防災計画の見直しを進めています。緊急時に区民のみなさんからのお問い合わせが集中する区役所は、その課題をとらえて今後の改善につなげる必要があります。

区は今、地域防災計画の見直しを進めています。緊急時に区民のみなさんからのお問い合わせが集中する区役所は、その課題をとらえて今後の改善につなげる必要があります。

緊急時に区民のみなさんからのお問い合わせが集中する区役所は、その課題をとらえて今後の改善につなげる必要があります。

かとうぎ桜子も震災直後には区民のみなさんから様々なお問い合わせ、お声をいただいていたのですが、改めてアンケートによってその声を集約しました。左にその一部をご紹介します。

やはり、多くの方が家に帰れないことや家族と連絡が取れなかったこと、そして「今後もっと大きな地震が来たら」という不安を感じることが分かります。また、特にお子さんや高齢の方、障害のある方の安否には大きな不安を感じ

「災害時要援護者名簿」をご存知ですか？

災害が起こった時に自力で避難をすることや情報収集が難しい人が、あらかじめ本人の希望で名簿に登録しておくものです。その情報は民生委員や地域の防災組織で共有されます。

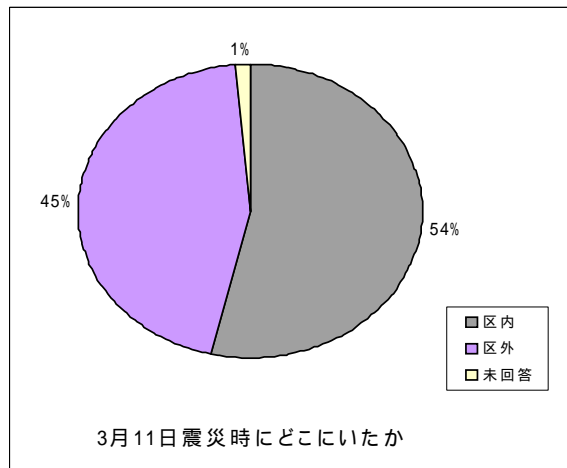
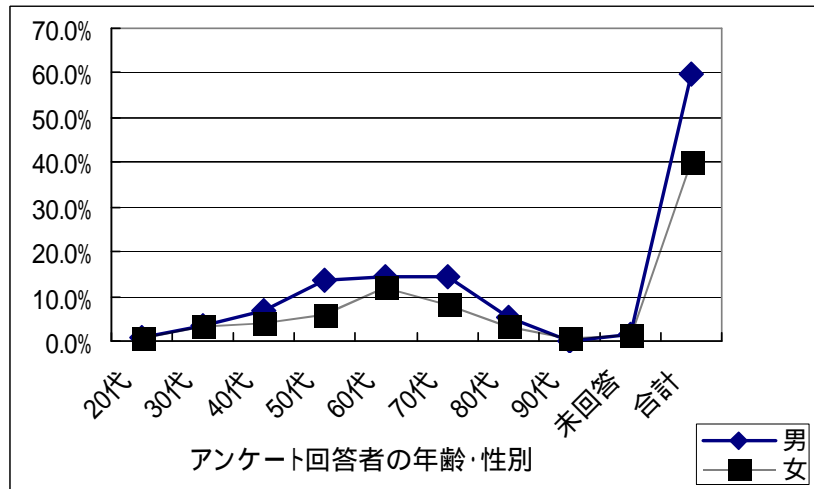
対象者は、介護保険の要介護3以上の人、身体障害者手帳1・2級の人、愛の手帳を持っている人、精神障害者保健福祉手帳1・2級の人、65歳以上のひとり暮らし世帯または75歳以上の人だけの世帯、難病の患者ですが、その他登録を希望する人も対象となりますので、不安を感じている方は区の福祉部経営課またはかとうぎ桜子までお問い合わせを。

みなさんの声をもとに、一般質問で災害対策について課題を指摘しました。

- ・震災が起きる時間帯や曜日によっての違いを考慮した体制づくりが必要。
- ・区は災害時に支援が必要となる「災害時要援護者」の名簿の整備を進めているが、今回は十分な活用が図られなかった。避難が必要な時だけでなく、安否確認や情報提供のために名簿を十分活用すべき。
- ・ご家族はいても、日中は高齢者が一人暮らし・夫婦のみになる家庭への支援も必要。
- ・災害時には、避難拠点でトイレのバリアフリーや授乳スペース、女性の着替え場所など障害のある人や女性への配慮が必要。災害時のバリアフリー対応や区民への啓発をすべき。
- ・練馬区は40ヶ所の福祉施設・特別支援学校と福祉避難所の協定を結んでいるが、受け入れ人数や対象者、地域バランスなど精査をし、平時から福祉施設と情報交換、研修、避難訓練などをする必要がある。
- ・福祉事務所では通常の福祉相談に加えて、災害時に発生する福祉ニーズへの対応をする必要がある。
- ・ふだんから人工透析や人工呼吸器、定期的服薬が必要な人への災害時のケアの体制もとる必要がある。
- ・災害時のペットへの対応を充実させ、区民への啓発を行う必要がある。
- ・これからも練馬区として、被災地への継続的な支援活動をすべきである。

【かとうぎ桜子が指摘したこと（要旨）】

アンケートの結果（2011年6月～8月配布）



【地震によって不安を感じたこと(複数回答あり)】 いただいたご意見のうち、特徴的なものをご紹介します。

高齢の家族の心配 (3件)

- ・「在宅医療を受けている母と、それを看護する父。ふたりだけなので、電話もつながらず、安否確認ができなかった。」
- ・「自宅に86歳の母がいて、安否の確認ができなかったこと。」

家族の安否 (51件)

- ・「夫が会社に行っていたので電話連絡が取れず、血圧も高いので帰宅途中で倒れていないか心配だった。結局、帰宅したのは夜中の1時頃でした。」
- ・「仙台の親戚は連絡が取れるまで1週間がかかりました。」
- ・「障害を持つ息子への不安。」
- ・「身障者の夫を連れてどうやって逃げるのか不安。」
- ・「ダウン症の子どもが練馬駅前まで働いていますが、西武線が不通になり、練馬駅まで探しに行ったのですが、なかなか見つからず大変でした。」
- ・「ペットのことが心配だった。」
- ・「保育園に預けているこどもの安否確認ができなかったこと。」
- ・「娘が鎌倉に外出していて、当日は帰宅できなかった。結局、鎌倉駅近くの学校の体育館でお世話になっていました。その晩は娘のことが心配でした。」

仕事のこと (5件)

- ・「学校に勤務していました。生徒が全員帰宅できるかどうか不安でした。結果的に職員の半分は一泊しました。」

帰宅ができない (35件)

- ・「帰宅できるか不安だった。通りを埋める帰宅困難者の車に火事が襲ったら、と不安だった。」
- ・「電車の運行情報が入手できず、帰宅するか、会社に泊まるかの判断が遅くなったこと。」
- ・「豊島園の庭の湯にいたのですが、何の情報もなく、西武線が止まっている中、午後6時には施設を出されました。歩いて帰りましたが孫の保育園のお迎えもあって困りました。」
- ・「ひばりが丘駅前(北口)に勤務しているが、ビルがごちゃごちゃ建っていて、どこに逃げれば安全なのか避難先がわからない。西武線のシャッターが下りていて電車は止まるし、寒くて困った。」
- ・「病院11階にいましたが、エレベーターが止まり、交通機関もなくお茶の水から池袋まで歩き、午後9時過ぎ池袋に到着。」

買い物など、生活の不安 (38件)

- ・「計画停電について、正しい情報をきちんと地域ごとに伝えてほしい。」
- ・「通勤電車が節電のため本数が減り、各駅停車になり、非常に込み合ったこと。」
- ・「自宅の修理。」
- ・「生活必需品が店頭から消えたこと。」
- ・「余震の不安。」

建物の倒壊の不安 (7件)

- ・「仕事中で、建物の倒壊が心配でした。このような緊急時はどうすればよいのか日頃の打ち合わせ、訓練が必要だと思った。」

原発のこと (13件)

- ・「福島を知り合いの所が放射能で汚染されてしまった。」
- ・「福島原発の放射能漏れで子育てへの大きな影響を考えた。」

その他 (37件)

- ・「身近な弱者や問題に目を向けられない人たちが、震災の報道をきいて募金活動に走り、自己主張しているように見える。」
- ・「退院直後で大変だった。」
- ・「身障者なので、ひとりでの行動に不安を感じている。」
- ・「老いてのひとり暮らしは予想以上の不安があり、その後の余震にも怯え不安の毎日でした。体調まで崩しました。ご近所の方に声をかけていただいたことが何よりも嬉しく、ありがたいことでした。」
- ・「高齢なので、避難所までの援助者がいないこと。」
- ・「外にいましたが、電柱電線が揺れ、いつ倒れるかと恐怖でした。」
- ・「自宅内にいて、すぐ廊下に出たがつかまっていなくて倒れそうだった。夜中だったらすぐに動けたかどうか不安だった。」
- ・「地元の間ではないので助けてもらえないのではと考えてしまう。」
- ・「慢性病の治療が平常通り行っていたら不安だった。」